



羽合小学校 学校通信

平成27年5月12日 NO.13

旅をさせよ

ゴールデンウィークにはご家族で旅行された方も多いのではないのでしょうか。旅といえば「かわいい子には旅をさせよ」という言葉をご存じの方も多いと思います。昔は交通機関も発達しておらず、旅は辛く苦しいことも多かったようです。我が子がかわいいなら、親の手元に置いて甘やかすばかりでなく、苦勞を経験させる意味で旅をさせた方が良いというような意味でしょうか。もう少し論を進めると、親元を離れて一人、世の中のつらさや苦しみ、また暖かさを経験した方がこどもは成長するということなのかもしれません。

テレビで時々「はじめてのお使い」といった番組が放送されますが、こどもたちがお使いの中で体験する心細さやつらさ、兄弟の絆や取り巻く人々の人情の深さなど、ハラハラしながらもお使いを通じて成長するこどもたちの姿に感心し、感動します。まさに「旅をさせよ」なのだと思います。

もう20年ほど前になりますが、中学生の修学旅行を初めて班別行動に変えた時のことです。それまでのガイドさんに引率されて観光名所をめぐる旅行から、5～6人の班ごとにプランを立て、交通機関や見学地の勉強をして、行ったことのない都会で頼る者もなく、1日行動して宿舎に帰るといえるのは大変な事

でした。満員のバスに乗れない、降りられない。他の班員とはぐれてしまう。行ってみたら店が閉まっている。食事も計画通りできない。財布を公衆電話に置き忘れる。土産物を買っておつりだけもらって土産物を忘れる。時間になっても帰って来ない(来られない)。沢山のアクシデントはあったものの、こどもたちが考えたり工夫したり、尋ねたり相談したりしながら全員無事帰って来ることができました。(もちろん教職員も様々な体制を整えて実施しています。)

その日におこなったこどもたちの報告会は、京都の人々の人情に触れた感動や、班の仲間への感謝の言葉に溢れたものとなりました。旅はこどもたちを成長させるのだと思いました。

しかし、現実の旅だけがこどもたちを成長させるものではありません。昨年お願いしました「忘れ物を届けたい!」といったことも「旅をさせよ」なのだと思います。「家で時間割を確認し、準備物を整えて登校できる」のは、「時間割や準備を確認せず、忘れたら届けてもらう」という姿よりより自立した姿だとわたしたち誰しもが思います。「適切な困難さや苦勞」はこどもたちを成長させます。どんなことがその「適切な困難や苦勞」なのか、教職員と保護者の皆さんで見極めながら、わたしたちの羽合小学校のこどもたちに旅をさせていきたいと思っています。

【5月30日(土) いよいよ運動会】

連休明けから運動会の練習が始まります。入学して1ヶ月過ぎたばかりの1年生は大丈夫か! 組み体操は本番までに仕上がるのか! 毎年、心配の種は尽きませんが、こどもたちの伸びしろの大きさに目を見張ります。どうぞお楽しみに!

羽合小学校 寺谷英則